

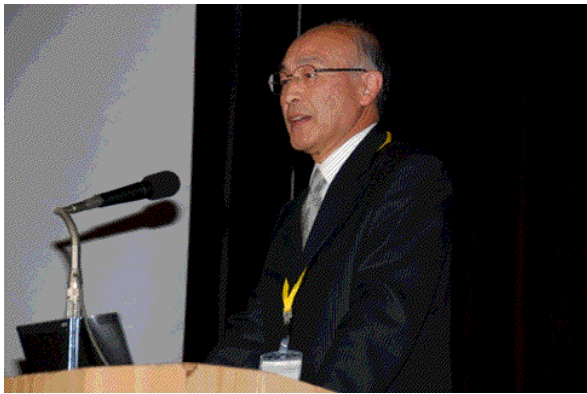
二戸市の取組

二戸市教育委員会

教育長 鳩 岡 矩 雄

本日は、このような機会を与えていただき、誠に光栄に存じております。

私に与えられたテーマは、組織マネジメントとして、学力向上にどう取り組んでいくかということです。私どもは、マネジメントとは、目的が組織を作り、目標が人を動かすということを根っこにおいて始めました。目的とは何か。ずばり、学力向上であります。目標とは県のレベルに近づき、上回ろうということでもあります。



また、人は本来人の命令では動かない。背景にある状況の理解で動くということ、これがマネジメントの鉄則であります。これを学校現場に当てはめると、教員は、教育長の教育行政ビジョンや校長の学校経営ビジョンのみで動くのではない。やはりビジョンの背景にある状況、つまり学力不足がいったいどういう状況なのか、市全体としては、学校それぞれの状況はどうかということを理解し、納得して動くということでございます。

そこで二戸ではまず、各学校の学力データを徹底的に詳しく分析し、それを学校毎に配布をいたしました。それは数字で示して視覚に訴える、これを心掛けたわけであります。そして、仕組み作りとして、学力向上研究会協議会を立ち上げ、各学校には教務主任、あるいは研究主任を中心に学力向上推進委員ということで、校務分掌に位置付けていただきました。こうい

形で学力向上プロジェクトというものがスタートいたしました。

このプロジェクトのきっかけとなったのは、平成22年3月に県教育委員会の教育次長が二戸市にいらっしゃったことでした。要するに、二戸市の学力が上がらないと県は上がらないのだから頑張れということでした。これは非常に有り難い言葉で、3月にこのお話をいただいたことで、私たちは4月からこの事業に取りかかれたのです。

平成22年度は、7月に市の広報で、12ページに渡り学力特集をしてもらいました。ここで、学校では学力向上を頑張るということを高らかに宣言いたしました。算数・数学を重点的に指導し、重点学年と項目を市民の皆さんにアピールいたしました。

平成22年度のまとめについては、1月に各学校が1年間どのようなことに取り組んだか、あるいは全国学調を通してどういう状況に各学校があるのかというデータを各学校に示しました。それぞれの項目でこういう弱みがある、強みがある。そして全体的には児童の分布はこうなっている。ここを指導すれば上がりますよ、ということを示しました。これを見て平成23年度はどこに力を入れたらいいかということを理解していただきました。

また、学校からは自己評価を提出してもらいました。市教委が定めた重点項目について、どのように取り組んで来たのかをまとめていただきました。そして、2月には校長と市教委とでやりとりをし、その後、学力向上取組の年度のまとめとして、二戸市全体と各学校毎の評価を市教委として資料にまとめて各学校に渡しました。その資料には、過去3年間の学力、同一児童の経年比較、学力向上に対する取組状況や評価を記入し校長先生といろいろとやりとりをい

たしました。

平成23年度は授業改善検討委員会、そして学力向上推進委員会を組織いたしました。事業といたしまして、一番の目玉は学力向上のための示範授業です。東京学芸大学の附属小中学校の3名の先生方に、3回二戸においていただきました。浄法寺小学校で行った小学校の算数の示範授業には、70名ご参加をいただきました。先生方の、何とか授業を良いものにしたいという思いを大変心強く感じました。

7月には秋田県大仙市に学力向上推進委員を派遣して、じっくりと状況を視察してもらいました。ところが、復命を見た副校長が「行ってみたい」ということになり、11月に市内副校長会で同じところを視察いたしました。私たち行政側としても、その意欲と全体の盛り上がり嬉しく、力になったことは間違いないところでございます。

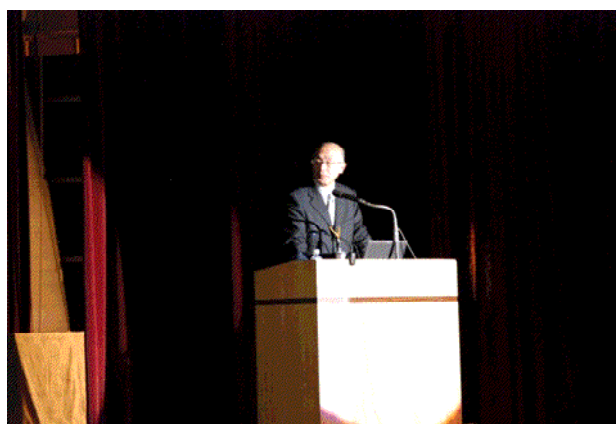
また、私たちの目的は、学力向上でございますけれども、学力向上は授業改善に尽きるということで、25年度には小中学校同じ視点から授業改善を目指そうと、そのモデル事業を作るため研究協議をし授業をやりながら進めている最中でございます。

この2年間の成果と課題ですけれども、二戸の場合は算数・数学に特化いたしました。徹底的にやった項目については上がりました。これは先生方も大いに自信になったと思いますし、子どもたちの成長を見るというのは教育で一番嬉しいものです。

また、同一児童・生徒への経年比較ですけれども、平成22年度には、中学校1年生が小学校の時に比べてガクッと下がったんですね。正に中1ギャップであります。しかし、中2でグンと回復しました。これは、正に先生方が手をかけた結果であることは間違いないところでございます。中1ギャップは、これは二戸市に限らず岩手全体の問題であると思いますが、このまま中1でずるずると下がるのか、それともここで回復するのかとでは、非常に大きな差ではないかと思っております。やはり一時は、人間関係や部活動などの状況から必ず下がると思いますが、もう一回そこから回復するかどうか

かが、やはり教える側として、また、行政側としての対応が非常に大きいと思っております。そして、指導主事こそが学力向上の担い手だと、これはもう私たちがこの二か年間の事業でしみじみと感じたところでございます。

いずれにしましても、理論の段階でさまよってはいけないというのが実感ですし、教師集団の考え方や意識のレベルではなくて、行動のレベルをどうするかということが重要ではないかなと思っております。教育委員会としていろいろ旗印も掲げましたけれども、やるのはやはり学校の先生方です。校長のリーダーシップです。そういう意味では、二戸市13の小中学校



の先生方が、本当に一生懸命やってくださいました。教育委員会として心より感謝を申し上げます。

ただ、学力には見える学力と見えない学力があります。今、私たちがやっているのは見える学力です。大事なものは、正に生きる力としての見えない学力なのです。ですから私たちの取組で、手をかければ見える学力は上がるかもしれせん。しかし、見えない学力が伸びるかどうなのか、それは正に私たちにかかっているのではないかと思います。そこは十分に戒めながら、数字だけを追うことなく、何とか手立てを講じながら子どもたちを支えていきたいと思っております。

以上で発表を終わります。ありがとうございました。